

R4.10 長野県新型コロナワクチン接種アドバイザーチーム

～生後6か月から11歳のお子様の保護者のみなさまへ～

- 新型コロナワクチンは、生後6か月のお子様から接種を受けられます。
- 発症・重症化予防のため、接種を推奨しますが、ワクチン接種のメリットとデメリットを踏まえて、ご家族で十分話し合ってください。その上で、ワクチン接種を受けるかどうか決めましょう。
- 特に、「基礎疾患(※1)を有するお子様とその同居のお子様(きょうだい等)、かかりつけ医が接種をすすめるお子様」には、接種を強く推奨します。
- 4歳以下のお子様は、間隔を空けて3回の接種が必要です。国が定める期間内(※2)に接種を完了するため、令和5年1月13日までに1回目の接種をご検討ください。なお、接種の前後2週間はインフルエンザ以外の他のワクチンは接種できませんので、他の定期接種のスケジュールに影響がでないように新型コロナワクチンを計画してください。

(※1)基礎疾患の例示

- | | | | |
|----------------------------|------------|--------|-------------|
| ①慢性呼吸器疾患 | ②慢性心疾患 | ③慢性腎疾患 | ④神経・筋疾患 |
| ⑤血液疾患 | ⑥糖尿病・代謝性疾患 | ⑦悪性腫瘍 | ⑧関節リウマチ・膠原病 |
| ⑨内分泌疾患 | ⑩消化器疾患・肝疾患 | | |
| ⑪HIV感染症・その他の疾患や治療に伴う免疫抑制状態 | ⑫高度肥満 | | |

(※2)新型コロナワクチンを無料で接種することができる期間（予防接種法上の特例臨時接種期間）は、現時点で令和5年3月31日までとなっています

- ご家族で相談しても決められない場合や不安な場合は、かかりつけ医に相談しましょう。
- 他の予防接種の日程など、ワクチン接種の計画が難しい場合は、かかりつけ医か市町村に相談しましょう。
- 何らかの理由でワクチン接種をしない人に対する差別はやめましょう。

ワクチンを受けた人も、今までのように、手洗い・消毒、マスク、三密の回避などの感染予防対策を続けましょう。

新型コロナウイルスに感染したときのリスクと、ワクチン接種のメリット・デメリット

対 象	生後6か月～4歳のお子様	5歳～11歳のお子様
新型コロナウィルスに感染すると？	<p>重症化する可能性は低いですが、感染者数の増加により重症化する人数は増えています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン株流行期において、新規感染者のうち10代未満は2割を占めています。 ・重症例や死亡例の割合は高齢者に比べて低いですが、感染者数が増加することで重症化するお子様の人数も増加する傾向にあります。 ・17歳以下の小児の重症・中等症の年齢別割合では、5歳未満が約6割を占めており、疾患としては「急性脳症」「熱性けいれん」などの神経合併症の割合が高いという報告があります。 ※1 	
メリット	<p>「発症を予防する効果」が期待されます</p> <p>オミクロン株流行期において、3回目接種後7日以降、73.2%の発症予防効果が報告されています。 ※2</p> <p>※現時点では直接的な重症化予防効果を証明した研究は示されていません。乳幼児はそもそも重症化しにくいいため、ワクチンの重症化予防効果は表れにくいですが、一般的には患者数が増えれば重症患者も増えるため、発症予防は結果的に重症者数の減少に繋がる可能性があります。</p>	<p>「発症を予防する効果」が期待されます</p> <p>オミクロン株流行期において、ワクチンを2回接種後1か月までは60%の予防効果があります。一方で、2か月たつと30%程度に低下することも報告されています。 ※3</p> <p>「重症化を予防する効果」も期待されます</p> <p>オミクロン株流行期において、ワクチン2回接種による入院と死亡を防ぐ効果は、約40-80%というデータがあります。 ※4</p>
デメリット	<p>接種後に副反応が出る可能性があります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種後、注射部位の痛み、だるさ、熱などの副反応はしばしば見られます。 ・インフルエンザなど従来お子様が受けるワクチンに比べ副反応の頻度は高いですが、ほとんどは2～3日以内に回復します。 ・これまでの国内外の小児接種のデータからは、重大な副反応の報告は見られていません。 ※5 	
	<p>ワクチン接種後、5歳以上と比べ以下の症状が多くみられます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機嫌が悪くなる (51.2%) ・食欲がなくなる (22.2%) ・眠くなる (27.0%) ・ほとんどの症状は軽度又は中等度であり、安全性に重大な懸念は認められていません。 ※2 <p style="text-align: right;">*()内は発現割合</p>	<p>接種後に極めてまれに心筋炎の報告があります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン後の心筋炎は極めてまれ(100万接種に1-4件)に報告がありますが、通常自然に回復します。 ・一方で、新型コロナに感染した後に心筋炎を起こす率は100万人当たり1300人(0.13%)というデータがあり、明らかにワクチン接種後よりもしばしば起こりえます。 ※6 ※7

(※1) 日本集中治療医学会・小児集中治療委員会新型コロナウイルス関連小児重症・中等症例発生状況速報

(※2) PMDA 審査報告書/ファイザー社臨床試験

(※3) 米国医師会 JAMA. 2022;327(22):2210-2219.(Fleming-Dutra et al)

(※4) 医学雑誌 Lancet. 2022 Jul 9;400(10346):97-103.(Sacco et al)/医学雑誌 NEJM. 2022 Jul 20.(Tan et al)

(※5) 第34回厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会)資料/米国疾病管理予防センター感染症情報 MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2022;71:1047-1051.

(※6) 第83回厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)

(※7) <https://www.myocarditisfoundation.org/covid-19-myocarditis-in-children/>